

[第79回企画展示]

第5回 酒田の人物資料展

—— 地方自治に尽くした人々① ——

2階 酒田の歴史と民俗資料展



後藤新平通信大臣の酒田河口港視察(明治42年8月26日)

○左端の山高帽が石井虎治郎 ○右端のステッキ姿が後藤新平

開催期間 平成6年2月10日(木)～平成6年4月17日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 11月～3月 月曜日(月曜日が休日のときは翌日)
4月以降無休

入館料 おとな 100円・児童生徒 50円

65歳以上の方と身体障害者の方は無料です

酒田市立資料館

〒998 山形県酒田市一番町8-16
TEL (0234) 24-6544

開催にあたって

今回の展示は酒田市制60周年にあわせて、地方自治の分野で尽力された人々、及び前回に続き近代化の礎を築かれた人々を取り上げ紹介展示します。

時代は明治初年から昭和8年の市制施行までです。

展示構成はおおよそ

- ① 地方自治の黎明期に活躍した人々
- ② 最上川改修工事と酒田築港の恩人
- ③ 酒田町の発展と本間家のご当主
- ④ 近代化へのさきがけ(教育・医学・文化など)

として11人の業績を中心に関係する数十名の人々の業績も合わせながら、明治以降の郷土の発展の歴史を概括します。

封建社会から近代社会への歴史的変革の時代に果たされた先人たちの大いなる遺産をしかと受けとめて、明日への展望

をきりひらいていただければと願っています。

身近な人たちの人物資料展は、これが最終回ではありませんが、より困難な状況の中で、資料調査など各地区公民館の方々をはじめ、ご家族や関係者の方には絶大なご理解とご協力を賜りました。ここに記して厚くお礼を申し上げます。

酒田の人物資料展・プログラム

- | | |
|------------------------------------|-----|
| ① 明治の青年群像 (1880年代に生まれた人々) | 17人 |
| ② 郷土史を彩る人々 (明治以前) | 25人 |
| ③ 地域社会の近代化に尽くした人々 (1)
(明治～昭和前期) | 18人 |
| ④ 地域社会の近代化に尽くした人々 (2)
(明治～昭和) | 16人 |

【本年度】

- | | |
|---------------|-----|
| ⑤ 地方自治に尽くした人々 | 29人 |
|---------------|-----|

【次 回】

- | | |
|-----------------|--|
| 酒田の人物資料展 ⑥ (未定) | |
|-----------------|--|

展示者の横顔

酒田町の発展と本間家の当主たち



本間 光暉 (ほんま こうき)
1803～1869 (写真は木像)

本間家5代当主。天保の三方領地替えて転封用金を提供。また大飢饉のさいは、藩に協力して窮民救済のために力を尽した。



本間 光美 (ほんま こうび)
1836～1913

本間家6代当主。明治以降の本間家中興の祖といわれ、また本間農場を設置して、乾田馬耕の普及など、農業の近代化につとめた。



本間 光輝 (ほんま みつてる)
1854～1922

本間家7代当主。町政施行で初代の酒田町長に就任、酒田大地震の復興など公益事業に尽力し、町の第1回特別功労者となる。



本間 光彌 (ほんま みつや)
1876～1929

本間家8代当主。農業関係の事業に尽力し、この地帯を東北稲作の先進地とした。また荘内育英会、光丘文庫を創立した。



本間 光正 (ほんま みつまさ)
1901～1945

本間家9代当主。蹄友会を組織し、馬場を造成して乗馬を広め、また戦時中飛行機3機を献納した。昭和20年4月46歳で没した。

地方自治の黎明期に活躍した人々



池田 藤八郎 (いけだ とうはちろう)

1862～1911

政治家。酒田町長、県議員を経て衆議院議員に選ばれ、鉄道敷設、授産事業、町営電気事業などに尽した。



本間 耕曹 (ほんま こうそう)

1842～1909

政治家。第2回衆議院議員に当選。戊辰戦争の時武器の購入などにあたり、庄内藩に協力した。剣道、手裏剣の名手といわれた。



堀 熊太郎 (ほり くまたろう)

1861～1928

地方自治功労者。大町溝水利組合議長、県議員を歴任し、耕地整理、産業組合の設立などに功労があった。



中山 英則 (なかやま えいそく)

1842～1913

酒田町長。松嶺、狩川の警察署長、酒田町助役を歴任し、のちに第3代目の酒田町長となる。温厚篤実な人柄が町民の信頼を受けた。



伊東 知也 (いとう ともや)

1873～1921

政治家。衆議院議員3期当選。ロシア、満州に渡り、孫文、黄興の革命志士と交わり、大陸経営と東洋平和をとらえた。



村田 與治兵衛 (むらた よじべえ)

1870～1922

素封家。砂糖、塩、荒物類の間屋を業とし酒田商業会議所会頭、町会議員、郡会議員、出羽銀行頭取として商工業の発展に尽した。

近代化へのさきがけ(教育・医学・文化など)



伊東清基 (いとう せいき)

1840~1895

医師。酒田で西洋医学を広め、医会所十全堂改築にも奔走。酒田にコレラが流行したとき、治療中に自分も感染して死亡した。



伊藤四郎右衛門 (いとう しろうえもん)

1853~1914

素封家。俳諧をたしなみ「養老庵万寿」と号し、東北の宗匠となった。また浜田に別荘を建てたが、庭園は今の「清暉(亀)園」となっている。



野附彰常 (のづき あきつね)

1825~1892

教育功労者。自宅に寺小屋を開いて子弟を教育、西岡周碩が学而館を創設すると学業係となり、また新学制編成に力を尽した。

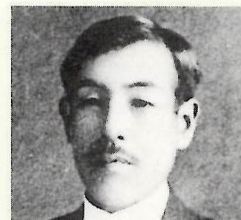
最上川の改修工事と酒田築港の恩人



石井虎治郎 (いしい とらじろう)

1856~1916

土木技師。最上川河口の大洪水の災害復旧で酒田に着任。難工事を指導監督、最上川改修工事と酒田港の基礎づくりに貢献した。



野村年 (のむら とし)

1873~1923

土木技師。最上川改修および酒田築港などの重要工事に活躍して功績を残した。欧米各国の工事状況を視察中事故死した。

酒田市旧町村の初代町村長

(明治22年4月1日施行)



酒田町 本間 光輝

(天王寺町22町・上小路14町・上中町25町)



中平田村 田中 農夫蔵

(浜田・手蔵田・熊手島・中野新田・熊野田
茨野新田・荻島・本川・土崎・小牧新田
小牧・大野新田・大多新田・勝保岡
大槻新田・古荒新田)



東平田村 土田 與助

(北沢・関・生石・横代・堺興野)



鶴渡川原村 新関 彌惣吉

(鶴渡川原・遊摺部)



北平田村 杉山 永治郎

(漆曾根・新青渡・円能寺・牧曾根・曾根田
布目・古青渡・上興屋・久保田・中野曾根)



西平田村 菅井 惣左衛門

(大宮・大町)



西荒瀬村 佐藤 信敏

(藤塚・豊里・酒井新田・宮海・穂積・高砂)



新堀村 阿部 孫左衛門

(木川・局・丸沼・新堀・板戸・落野目・門田
〔旧久田村を除く〕)



本楯村 杉山 三郎治

(本楯・城輪・庭田・豊原・豊川・保岡
大豊田)



上田村 島田 良三

(吉田・鶴田・上野曾根・吉田新田・安田
苜穂)



広野村 菅澤 傳太郎

(大淵・広野新田・福岡)



南遊佐村 石山 義孝

(米島・宮内・千代田)

袖浦村

加藤 甚平

(黒森・宮野浦・坂野辺新田・十里塚・浜中
広岡新田)

飛鳥村

吉井 佳和

(勝浦・浦・法木)